

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

第一問 (評論) 採点基準 (合計点40点)

(一) 9点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

相手の動作に同調する神経細胞である ミラーニューロンの発見は、

A③〇2点 X〈分析〓分けること〉〇1点

表現の共有と直達を示唆し、

B〇1点

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇1点

意識の孤立性という現代の前提を

C〇1点

Z〈否定を含む総合〓否定を含んでまとめること〉〇1点

否定することになるから。(9点)

【構造点】

・Xは、〈A①+A②〉をA③の〈矛盾〉しない要素に〈分析〓分けること〉して説明する仕組み

への評価である。ここでは、要素A①A②のいずれかと、要素A③がそろっていれば、この仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 〈A①あるいはA②〉+A③ 〇1点

・Yは、傍線部をAとBの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。条件A内の少なくとも一つの要素と条件Bがあれば、この仕組みの骨組みは成立している  
とみなして1点加算。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A系列内の少なくとも一つの要素+条件B 〇1点

・Zは、条件Bを否定して条件A以上にまとめる〈否定を含む総合〓否定を含んでまとめること〉の仕組みへの評価である。条件A内の少なくとも一つの要素と条件B、それに条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Z〈否定を含む総合〓否定を含んでまとめること〉 条件A内の少なくとも一つの要素  
+条件B+条件C 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは原則的に条件同士において、また条件A内の要素間においても部分採点可能。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した条件ないしは要素の組み合わせが成立している場合に限り加点する。(3点満点)

A 「相手の動作に同調する神経細胞であるミラーニューロンの発見は、表現の直達と共有を示唆し、」(4点)

※ 傍線部を説明する一方の条件。

① 「相手の動作に同調する神経細胞である」の要素に1点。

○ 「相手の動作を見て興奮する神経細胞である」「相手の動作を意識のなかで模倣する」などでも可。

× 「相手の動作に同調」「神経細胞」の二成分のニュアンスがなければ×0点。

② 「ミラーニューロンの発見は、」の要素に1点。

○ 「ミラーニューロンの大発見は、」「ミラーニューロンという神経細胞がみつかったことは、」などでも可。

× 「ミラーニューロン」「発見」の二成分がそろっていないければ×0点。

③ 「表現の共有と直達を示唆し、」の要素に2点。

○ 「表現を聞いたとたんにわかっていることと」「表現が一種のテレパシーで伝わること」などでも可。

× 「表現」「直達」の二成分がそろっていないければ△1点。

○ 「分かち持っていることを示し、」「分有を証し、」などでも可。

× 「共有」「示唆」の二成分のニュアンスがそろっていないければ△1点。

B 「意識の孤立性という現代の前提を」(1点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「意識は孤立しているとする現代の常識を」「意識は自分に独自だとする現代の想定を」などでも可。

× 「意識の孤立性」「現代の前提」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「否定することになるから。」(1点)

※ A、Bを〈A~but notB〉の構文で、まとめる条件。Bを否定してAの側に片寄せてまとめることになる。

○ 「排することになるから。」「認めないことになるから。」などでも可。

× 「否定」の成分がなければ×0点。

(二) 9点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

近代は 各個の意識の独立を想定するが、

B①○1点

人は社会生活を主とし、

B②○1点

B③○1点

B④○1点

B⑤○1点

また閉鎖集団での 異常事態は、

ある種の状況では

皆の脳が同じように反応するのを

X〈分析〓分けること〉○1点

証しているから。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点 (9点)

【構造点】

・Xは、条件BをB①の要素と、B②以下要素群の〈矛盾〉しない二成分に〈分析〓分けること〉する仕組みへの評価である。ここでは、B①と、B②以下の条件Bの要素が少なくとも一つそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 B①+B②〓B⑤の少なくとも一要素 ○1点

・Yは、傍線部をAとBの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここではA、B内のそれぞれ少なくとも一つの要素が入っていればこの仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士で、また各条件内の要素間においても原則的に部分採点可能である。  
(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件ないしは要素の組み合わせが成立している場合に限り1点加算する。(2点満点)

A 「近代は各個の意識の独立を想定するが、」(2点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「近代は」の要素に1点。

- 「近代人は」「近代においては」などでも可。
- × 「近代」の成分がなければ×0点。

② 「各個の意識の独立を想定するが、」の要素に1点。

- 「個々の意識の独立性を前提するが、」「個人の意識の独自性を常識とするが、」などでも可。
- × 「各個の意識」「独立の想定」の二成分がそろっていないなければ×0点。

B 「人は社会生活を主とし、また閉鎖集団での異常事態は、ある種の状況では皆の脳が同じように反応するのを証しているから。」(5点)

※ 傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「人は社会生活を主とし、」の要素に1点。

- 「ヒトは社会生活を主要な場とし、」「人間は主に社会のなかで生活し、」などでも可。
- × 「人」「社会生活を主とする」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「また閉鎖集団での」の要素に1点。

- 「また意識が内側だけに向かう集団での」「また自閉した集団での」などでも可。
- × 「閉鎖集団」の成分がなければ×0点。

③ 「異常事態は、」の要素に1点。

- 「通常では考えられない事態は、」「正常とは言えない事態は、」などでも可。
- × 「異常事態」の成分がなければ×0点。

④ 「ある種の状況では」の要素に1点。

- 「一種の状態では」「ある種の情勢下では」などでも可。
- × 「ある種の状況」の成分がなければ×0点。

⑤ 「皆の脳が同じように反応するのを証しているから。」の要素に1点。

- 「人々の脳が同様な反応をするのを証明しているから。」「みんなが無意識的に同じように反応することを証拠だっているから。」などでも可
- × 「皆の脳」「同じように反応する」「証している」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

(三) 8点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

西洋近代的な自我を確信する 日本インテリや学者が、

B①〇1点 B②〇1点

ありもしない 「同じ本来の自分」の様態を問われて、

C①〇1点 C②〇1点 C③〇1点

それは不変だから、 極限状態にこそ 露出するとした回答。

X〈矛盾を含むこと〉〇1点 (8点)

【構造点】

・Xは、条件Aの行為を〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明する〈逆説||矛盾をふくむこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、条件A内の要素と、条件BおよびC内の要素がそれぞれ一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説||矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内の要素間で原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要素の組み合わせが成立している場合に限り加算する。(1点満点)

A 「西洋近代的な自我を確信する日本インテリや学者が、」(2点)

※ 主体明示の条件。

① 「西洋近代的な自我を確信する」の要素に1点。

○ 「西洋近代的自我を信奉する」「西洋近代的な自我を疑うことのない」などでも可。

× 「西洋近代的自我」「確信する」の二成分が入ってなければ×0点。

② 「日本のインテリや学者が、」の要素に1点。

○ 「我が国のインテリや学者が、」「日本の知識人たちが、」などでも可。

× 「日本」「インテリや学者」の二成分がなければ×0点。

B 「ありもしない『同じ本来の自分』の様態を問われて、」(2点)

※ Aの行為について説明する一方の条件。

① 「ありもしない」の要素に1点。

○ 「存在しえない」「あるはずもない」などでも可。

× 「ありもしない」というニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『同じ本来の自分』の様態を問われて、」の要素に1点

○ 『『本来の自分』がどのように同じであるのかを問われて』「どのように『自分は本来同じ』なのかを訊かれて」などでも可。

× 『『同じ本来の自分』の様態』「問われて」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「それは不変だから、極限状態にこそ露出する」とした回答。」(3点)

※ Aの行為について説明する、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「それは不変だから、」の要素に1点。

○ 『『本来の自分』は不変だから、』「それは変わることがないから、」などでも可。

× 「それ(＝『本来の自分』)「不変」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「極限状態にこそ」の要素に1点。

○ 「極限状況でこそ」「極限状態にあってこそ」などでも可。

× 「極限状態」「こそ(限定条件)」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「露出する」とした回答。」の要素に1点。

○ 「現れる」という回答。」「露になるとする回答。」などでも可。

× 「露出する」「回答」の二成分がそろっていないければ×0点。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

西洋近代的な、自分だけの「同じ」意識に心に個性が宿るということではなく、

B①〇1点

B②〇1点

外部世界を感知する感覚が「点」としての意識に内容を与えるのだが、

B③〇1点

B④〇1点

身体を含む外部は差異の連続であって、各人の違いが生じるのだから、

B⑤〇1点

X〈分析〓分けること〉〇1点

個性は身体に当然刻まれているということ。〈120字〉

Y〈分析〓分けること〉〇1点 Z〈分析〓分けること〉〇1点 (11点)

【構造点】

・Xは、条件B内で、〈B③+B④〉とB⑤の〈因果関係〉に立つ〈矛盾〉しない二成分に分けて説明する。

〈分析〓分けること〉する仕組みへの評価である。ここでは、B③かB④のいずれかの要素に、B⑤の要素がそろっていればこの仕組みの骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈B③あるいはB④〉+B⑤の要素 〇1点

・Yは、条件Bを〈B①+B②〉と〈B③+B④+B⑤〉の〈因果関係〉に立つ〈矛盾〉しない二成分に分けて説明する〈分析〓分けること〉の仕組みへの評価である。ここではB①、B②のいずれかの要素と、B③〜B⑤のいずれかの要素がそろってあれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y〈分析〓分けること〉 〈B①あるいはB②〉+〈B③〜B⑤のいずれかの要素〉 〇1点

・Zは、傍線部を、A、Bの(notX〜butY)の形をとる〈矛盾〉しない—例えば〈男ではなく女〉のよう

に否定の要素が入ること、〈矛盾〉は解消される—二条件に分けて説明する、〈分析〓分けること〉の仕組みへの評価である。ここでは、A、Bの各条件内の要素がそれぞれ一つ以上そろってあれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Z〈分析〓分けること〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

◎ 採点のポイント



※ A、Bは条件同士において、また各条件内の要素間においても原則的に部分採点可能である。8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要素の組み合わせが成立している場合に限り加点する。(3点満点)

※ 「一〇〇字以上二二〇字以内」という字数制限付きの設問であるから、字数不足・字数オーバーは採点対象外、つまり総点0点である。

A 「西洋近代的な、自分だけの「同じ」意識」心に個性が宿るということではなく、」(3点)

※ 傍線部を説明する〈notX〉の条件。

① 「西洋近代的な、」の要素に1点。

○ 「西洋近代に導かれた」「西洋近代由来の」などでも可。

× 「西洋近代的」のニュアンスがなければ×0点。

② 「自分だけの「同じ」意識」心に」の要素に1点。

○ 「固有で変わらぬ意識」心に」「自分独自の不変の意識」心に」などでも可。

× 「自分だけ」「同じ」「意識」心(意識、心のいずれかでもよい)の三成分のニュアンスが入っていないければ×0点。

③ 「個性が宿るということではなく、」の要素に1点。

○ 「個性があるということではなく」「個性が育まれるのではなく」などでも可。

× 「個性が宿る」「ではなく(否定)」の二成分のニュアンスがなければ×0点。

B 「外部世界を感知する感覚が「点」としての意識に内容を与えるのだが、身体を含む外部は差異の連続であって、各人の違いが生じるのだから、個性は身体に当然刻まれているということ。」(5点)

※ 傍線部を説明する〈butY〉の条件。

① 「外部世界を感知する感覚が」の要素に1点。

○ 「外部を感知する感覚が」「外部世界を捉える感覚が」などでも可。

× 「外部世界」「感知する感覚」のニュアンスを持つ二成分がそろっていないければ×0点。

② 「点」としての意識に内容を与えるのだが、」の要素に1点。

○ 「点」に過ぎない意識に内容を付与するのだが、「点」である意識に内容を与えてしまうと」などでも可。

× 「点」としての意識「内容を与える」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

- ③ 「身体を含む外部は差異の連続であって、」の要素に1点。  
○ 「身体から始まる外部は差異の連続なのであって、」外部は身体も含めて差異の連続としてあり、」などでも可。  
× 「身体を含む外部」「差異の連続」の二成分がなければ×0点。
- ④ 「各人の違いが生じるのだから、」の要素に1点。  
○ 「個人差が生じるのだから、」「それぞれの人の違いが出てくるのだから」などでも可。  
× 「各人の違い」「生じる」の二成分のニュアンスがなければ×0点。
- ⑤ 「個性は身体に当然刻まれているということ。」「の要素に1点。」  
○ 「必然的に個性は身体にこそあるということ。」「個性は身体に刻まれているというのが当然だということ。」「などでも可。  
× 「個性」「身体に刻まれている」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

(五) 各1点(合計3点)

a || 直達

b || 安泰

c || 除

(一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔傍線部〕 A1人の口にB1同じやうにC1言はれ侍りき

〔解答例〕 A1人の噂でB1同格の歌詠みのようにC1言われておりました。

〔ポイント〕

A【1点】 人の口に ↓ 人の噂で

※「人の」はなくてもよい。「噂で・評判によると」などでもよい。

B【1点】 同じやうに ↓ 同格の歌詠みのように

※「同格」の意と「歌詠み・歌」の意がなければならぬ。

「同格」は、「同じ位の実力・同様に優れた・並び賞せられる」などでもよい。

「歌詠み」は、「歌人」でもよく、「歌を詠む力をもつ」などでもよい。

※「同じように」のままは×。

C【1点】 言はれ侍りき ↓ 言われておりました。

※「言う・並び称する」+受身「れ」+丁寧「侍り」(です・ます・〜ています) + 過去「し」が全て訳出されていなければならない。

(二) 文科イ・理科イ 傍線部を現代語訳せよ。

【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔傍線部〕 A2 何事かはあらB1ん

〔解答例〕 A2 そんなことはないB1だろう

〔ポイント〕

A【2点】 何事かはあら ↓ そんなことはない

※「そんなこと」は、「そんなはず・同格であること・隆信と定長が同格であるはず」などでもよい。

※「どんなことがあるか・どういうことか」などは×。

B【1点】 ん ↓ だろう

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※推量の意があればよい。

(一) 文科才・理工科 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔傍線部〕 A1 寂蓮 B1 C1 さうなし

〔解答例〕 A1 寂蓮は B1 ほかに並ぶ者のない優れた C1 歌詠みだ

〔ポイント〕

A 【1点】 寂蓮 ↓ 寂蓮は

※Bが×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は得点できる。

※主語として「寂蓮」が明らかであればよい。「寂蓮に並ぶ歌人はいない」のように主語となっていない場合は×。

※「定長」は×。

B 【1点】 さうなし ↓ ほかに並ぶ者のない優れた

※「並ぶ者のない」の意があればよい。「ほかに・優れた」はなくてもよい。

※「並ぶ者のない」はねる「またとない・比類ない・二人としない」などでもよい。

※右の表現がない「優れた・素晴らしい」などは×。

C 【1点】 (さうなし) ↓ 歌詠みだ

※Bが×の場合は得点できない。ただし、×だが「優れた・素晴らしい」などの意がある場合、また、誤字等で×になっている場合は得点できる。

※「歌詠み」は「歌人・歌の名人」などでもよい。

文科(二)・理科(二) 傍線部ウとあるが、俊成はなぜそのように言ったのか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 返抄も賜びつべくおぼゆれ

〔解答例〕 A3 十首歌を見て、B1 隆信と定長C1の歌を詠む力(B・C)が同等だと認めただから。

〔ポイント〕

A【3点】 十首歌を見て、

※BもCも×の場合は得点できない。ただし、誤字等で×になっている場合は得点できる。

※「十首歌」の意があればよい。「十座の百首」は×。

B【1点】 隆信と定長 〽 が同等だと認めただから。

※「隆信と定長が同格だったから・隆信と定長が素晴らしかったから」の意があればよい。

※「定長」を「寂蓮」としている場合は×。

C【1点】 の歌を詠む力 〽 が同等だと認めただから。

※「歌」と「同じ」の意があれば、「歌を詠む力が同等だったから・歌人として同格だったから・二人とも素晴らしい歌を詠んだから」などでもよい。

文科(三) **文科のみ** 傍線部エとあるが、そのようになった理由を説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 たとしへなくまさりたりけれ

〔解答例〕 A2 隆信は公務で忙しかったが、B3 定長は出家後で歌を熟慮する余裕があったから。

〔ポイント〕

A【2点】 隆信は公務で忙しかったが、

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「公務・宮中での仕事」がない、「隆信は忙しかったが」は【1点】。

B【3点】 定長は出家後で歌を熟慮する余裕があったから。

※1「定長は余裕(時間)があったから」の意があれば【1点】。

「定長」は「寂蓮」でもよい。

※1の意があり、「出家後で」の意があれば、さらに【1点】。

※1の意があり、「熟慮する(推敲する・見直す)余裕(時間)があったから」の意があれば、さらに【1点】。

「歌を」はなくてもよい。

文科(四) **文科のみ** 傍線部力を、必要な言葉を補って現代語訳せよ。

**【5点】**

※基本的に、**全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があていければ、その部分の点は与えることとします。**ただし、**条件が書かれている場合は、それに従って下さい。**

〔傍線部〕 A1 いかなるをこの者の、B2 同じ列のC2 詠みくちとは番ひそめたるぞ

〔解答例〕 A1 どんな愚か者が、B2 隆信と定長を同列のC2 歌人だと一対に扱い始

めたのか

〔ポイント〕

**A【1点】** いかなるをこの者の、 ↓ どんな愚か者が、

※「どんな」は「どのような」でもよい。「どの」「どの」でもよしとする。

※「愚か者」は「馬鹿者」などでもよい。

**B【2点】** 同じ列の詠みくちとは ↓ 隆信と定長を同列の歌人だと

※1 「同列の歌人だと」ができて **【1点】**。

※「同列」は「同等・同格・同じ程度」などでもよい。

※「歌人」は「歌詠み」、または、「詠みぶり・歌を詠む力がある」などでもよい。  
「詠みくち」のままは **x**。

※1 のことが「隆信と定長」について言っていると分かるようになっていれば、さら  
に **【1点】**。

※「定長」は「寂蓮」でもよい。

**C【2点】** 番ひそめたるぞ ↓ 一対に扱い始めたのか

※「一対に扱い」は「並び称し・並べ」などでもよい。Bの「同列」と意味が重なる  
が、ここはここで訳語がなければならぬ。

これがあれば **【1点】**。「扱い・言い・し」などは **x**。

※「一対に扱い(並び称し・並べ)」、「または**【扱い・言い・し】**」(右では **x** だが、  
こちらでは得点対象となる)などの意がある上で、「し始めた」の  
意があれば、**【1点】**。

例 一対に扱い 始めたのか **【2点】** ※「一対に扱い(並び称し・並べ)」「も、  
「し始めた」もある。

一対に扱ったのか **【1点】** ※「一対に扱い(並び称し・並べ)」「があ  
るが、「し始めた」がない。

扱い始めたのか **【1点】** ※「一対に扱い(並び称し・並べ)」「がな  
いが、「扱い・言い・し」があり、「し始めた」がある。

扱ったのか **【0点】** ※「一対に扱い(並び称し・並べ)」「も、  
「し始めた」もない。

※文末の「のか」は、解答全体で疑問文と分かれば「のだ」でもよい。



文科(五)・理科(三) 傍線部キ(理科) オ(とはどういうことか、説明せよ。 【6点】

「傍線部」 A3さるほどの歌仙にてB3やみなまし

「解答例」 A3それなりの優れた歌人のままでB3名声が保たれたであろう、という「と」。

「ポイント」

※「もし早くに死んでいたら」や、「寂蓮と比べられることもなく」といった説明の有無は不問とする。

A【3点】 それなりの優れた歌人のままで

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「それなりの」はなくてもよい。「優れた歌人のまま・歌の名人として」の意があればよい。

「優れた・素晴らしい・名人」などの意がない場合は×。

※「優れた・素晴らしい・名人」の意はあるが、「歌人・歌」の意がない場合は【1点】。

※「優れた・素晴らしい・名人」の意はあるが、「歌仙」が「歌仙」のまま、または「歌の仙人」となっている場合は【1点】。

B【3点】 名声が保たれたであろう、ということ。

※推量の意がない「名声が保たれたということ」などは×。

※「名声が保たれた(評判が得られた・評価された)」などがなく、「いられただろ  
う、ということ・なっていただろ、ということ」などは【1点】。

(一) c 2点

【模範解答例】旨いものを(A1点) 食べる(B1点)

※「美とする」の要素……A1点

・うまいもの(を食べる)、おいしいもの(を食べる)、美味なもの(を食べる)、贅沢なもの(を食べる)など○

・(食べるものを)豪華にする、(食べるものを)ぜいたくにする、など○

・(食べるものを)美しくする、楽しむなどは×(マイナス1点)

※「飲食」の要素……B1点

・(うまいものを)食べる、飲み食いする、飲食するなど○

・(うまいものを)飲む、は×(マイナス1点)

・食べ(る)ものを(ぜいたくにする)、飲食物を(ぜいたくにする)など○

・飲酒を(楽しむ)、飲みものを(豪華にする)などは×(マイナス1点)

(一) d 2点

【模範解答例】資(財)力(A1点) がなかった(B1点)

※「力」の内容……A1点

・資力、財力、経済力、(お)金、先立つもの、書物を買う金(力)など○

・本(書物)を読む力……×マイナス1点

※「無し」の要素……B1点

・「なかった」と過去形になっていること。

・「ない」は×マイナス1点

※「無力であった」は×マイナス2点

(一) e 2点

【模範解答例】衰えた晩年になって(2点)

※「衰えた」「枯れ衰えた」「老いた」などの有無は不問。

※「晩年になって」「老齡(年)になって」「老人になって」など○

※「晩年になる(なった)」のように、下に続く形になっていないものは△マイナス1点

(二) 6点

【模範解答例】若い時よりも晩年のほうがよいと言うのは (A 4点)

間違っている (B 2点)  
ということ。

A 「然ら」の要素……4点

※ 「晩景佳し、恰も少時に比して好し」の内容

・ 「晩景 $\downarrow$ 少時」を「晩年(老年) $\downarrow$ 若い時」の対比にとれていないものは×

・ 「若い時よりも晩年のほうがよい」「年をとってからのほうが若いころよりよい」など

○

・ 「よい」の部分を「 $\sim$ よりも $\sim$ ほうが)美しい」は $\Delta$ マイナス3点

※ 「人は言ふ」の要素が欠けている(不明瞭な)ものは $\Delta$ マイナス1点

・ 「 $\sim$ と言うのは」「 $\sim$ と人が言うのは」「 $\sim$ と言う人がいるが」など○

・ 「 $\sim$ ということは」「 $\sim$ ととるのは」など $\Delta$ マイナス1点

B 「道 $\sim$ ず」の要素……2点

※ 「間違っている・間違いである」「 $\sim$ 違う・ $\sim$ 違ふと思う」など○

・ 「 $\sim$ そうではない」は $\Delta$ マイナス1点

「道理として $\sim$ ではない」なら○

・ 「 $\sim$ より $\sim$ ほうがよい」とは限らない」は×マイナス2点

文末の表現については不問とする。

(三) 8点

【模範解答例】若い時は (A 1点)

美しくも (B 1点)

健康でもあり、 (C 1点)

何を着ても似合ったり、 (D 1点)

幾らで食べられたりもするが、 (E 1点)

年をとると (D 1点)

そうでもなくなってしまう (E 2点)

から。

A 第6句「少女なれば」の「少」の要素……1点

※第7句の「老いては」と対比している。

※「須らく早かるべし」であるから、「若い時」のほうに重きを置いて、A、B、B、C、Cで5点分とする。

B 第6句「少女なれば」の「艾」の要素……1点

※「艾」は「美しい、見た目がよい」の(注)がある。

※「美しい」から、Bになる。

, B 第5句・第6句の要素……1点

※「衣裳を美に」しても「軀を光かす」ことができる、ということ。

※「何を着ても似合う」「美しい衣服も似合う」「着飾ることもできる」など○

※「衣裳も似合う」でも○とする。

C 第10句「壮佼なれば」の要素……1点

※「壮佼」には(注)がある。

※「元気なので」「体力もあり」などでもよい。

, C 第9句・第10句の要素……1点

※「飲食を美に」しても「多きを嫌はず」である、ということ。

※「いくらでも食べられる」「多すぎていやになることがない」「たくさん食べられる」など○

※「何でも食べられる」でも○とする。

※「うまいものを味わえる」でも○とする。

D 第7句「老いては」、第11句「既に衰へたるに及んでは」の要素……1点  
※ 「年をとると」「年老いてしまうと」「年をとってからでは」など○

E 第7・8句、第11・12句の要素……1点

※ 解答欄の大きさ、字数の都合で、解答例は「そうでもなくなってしまふ」のようにしたが、「そもいかなくなる(できなくなる)」「若いころのようにはいかなくなる」「何も楽しめなくなる」などでも○

※ 「せっかくの美しい着物も似合わなくなる」「すぐに腹がいっぱいになる」「あまり食べられなくなる」など、具体的に書いてあってもよい。

文末の「くから・くので」は不問。

(四) 10点

【模範解答例】

若い時は貧しく、 (A 2点)  
学問も結婚も不如意であったが、 (B 3点)  
富貴の家に生まれていたら、 (C 2点)  
若い時からもっと存分に生きられたであろうに (D 3点)  
ということ。

A 第13句「少」・第15句「嘗」の要素……1点

第16句「貧」の要素……1点

※「若い時」は、「若いころ」「かつては」「以前は」などでも可。

※「貧しくて」は、本文に「賤」の要素はないが、「貧しくて身分も低く」や「貧賤で」でも可とする。

B 第13・14句、第15・16句の要素……3点

※第13・14句は「学問」がポイント……1点

第15・16句は「結婚」がポイント……1点

「購ふ」「力無し」「能く之を致す莫し」で「不如意」の要素……1点

※「学問・結婚」をまとめて「何事も」「すべて」などとしているものは△1点

※「不如意」は「思うようにならず」「不自由で」などでもよい。

※A、Bは、設問の「作者自身の人生を踏まえて」の説明にあたる。

C 「富貴の家に生長せば」の内容……2点

※「富貴」は「裕福で身分も高い」意であるが、「金持ちの」「裕福な」だけでもよしとする。

※逆に「身分の高い」だけで「富」の要素がないものは△マイナス1点。

※「生長」も、「生まれ、成長していれば」であるが、「生まれていけば」「育っていたら」のように、一方の意だけでもよしとする。

D 「一日は兩日に抵たらん」の内容……3点

※「若い時からもっと存分に生きられたであろうに」「もっと思うように生きられたであろう」「人生も倍生きられたであろう」「もっとたっぷり生きられたであろう」など

○

※「一日が二日くらいになっただろう」「一日はもっと長かったであろう」などは△マ

イナス 2点。

※ 「一日が二日に感じられるほど退屈だったであろう」「さぞつまらない人生だったであろう」などは×マイナス 3点。

文末の「〜ということ」の有無は不問。

第四問 現代文（随筆） 採点基準（合計20点）

（一）5点

（模範解答例）

A ○1点

自分の姿は他人には見えるが、

B ① ○1点

自身で捉えようとしても鏡の像や写真やビデオには修正が入り、また姿の定着には時

B ② ○1点

B ③ ○1点

X 〈分析Ⅱ分けること〉 ○1点

の経過を要するので、不可能だということ。（5点）

【構造点】

・ Xは、傍線部を、A、Bの〈X but not Y〉の構文をなす〈矛盾〉しない—例えば〈女であって男ではない〉のように否定の要素が入ることで〈矛盾〉は解消される—二条件で説明する〈分析Ⅱ分けること〉の仕組みへの評価である。ここでは、Aと、Bの要素が一つ以上入っていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなし1点加点。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、またB内では要素間において、原則的に部分採点可能である。（4点満点）

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。（1点満点）

A 「自分の姿は他人には見えるが、」（1点）

※ 傍線部の含意を説明する条件。

○ 「自分の姿は他人には見えても」「自分の姿は周りには見えるかもしれないが、」などでも可。

× 「自分の姿」「他人には見える」の二成分がはいつていなければ×0点。

B 「自身で捉えようとしても鏡の像や写真やビデオには修正が入り、また姿の定着に



は時の経過を要するので、不可能だということ。(3点)

※ 傍線部の説明の本体となる、Aとは〈矛盾〉しない条件。

① 「自身で捉えようとしても鏡の像や写真やビデオには修正が入り、」の要素に1点。

※ 傍線部の説明の本体をなす一方の要素。

○ 「自分で捉えようとしても鏡の像では自分の、写真やビデオでは他者の修正が入り、」「自身で捉えようにも鏡の像では本人の修正が、写真やビデオでは他者の編集が入り、」などでも可。

× 「自身で捉えようとする」「鏡の像」「写真やビデオ」「修正」の四成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「また姿の定着には時の経過を要するので、」の要素に1点。

※ 傍線部の説明の本体をなす他方の要素。

○ 「また人が姿となるには歳月の流れが必要となるので、」「人の姿の定着には歳月を要するので、」などでも可。

× 「(人の)姿の定着」「時の経過を要する」の二成分のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「不可能だということ。」の要素に1点。

※ 傍線部の説明の本体における結論の要素。

○ 「なしえないということ。」「できないということ。」「などでも可。

× 「不可能(否定の成分)」のニュアンスがなければ×0点。

(1) 5点

(模範解答例)

A ○1点

妙齢の女性に、自分を父親と間違われて、

B ○1点

自分の親にして子という立場に置かれて気味が悪いが、

C ① ○1点

C ② ○1点

自分が若く見られたことにもなるので 幾分うれしくもあるから。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点 (5点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明において、条件Aの事実から引き出される、B、Cのマイナスとプラスの〈矛盾〉する二条件(心情)に引き裂く、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。ここでは、条件A、Bと、条件C内の要素の一つがあれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において、またC内では要素間において、原則的に部分採点可能である。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(1点満点)

A 「妙齢の女性に、自分を父親と間違われて、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題表示の条件。

○ 「妙齢の女性に、眼前の自分が自分の息子だと思われて、」「妙齢の内の女性に、自分が眼前の自分の父と勘違いされて」などでも可。

× 「妙齢の女性」「自分を父と間違われる」の二成分がそろっていないければ×0点。  
(自分〓父親、自分〓息子のいずれの解釈でもよしとする。)

B 「自分の親にして子という立場に置かれて気味が悪いが、」(1点)

※ Aから引き出されるマイナスの心情の条件。

- 「自分の親でもあり子でもあるという位置におかれて妙な気分だったが」、「自分が自分の親とも子とも解釈できることになって薄気味悪いが、」などでも可。
- × 「じぶんの親にして子という立場」「気味が悪い」の二成分がそろっていないなければ×0点。

C 「自分が若く見られたことにもなるので幾分うれしくもあるから。」(2点)

※ Aから引き出されるプラスの心情の条件。

① 「自分が若く見られたことにもなるので」の要素に1点。

- 「自分が若々しく見えたことになるので」「自分が妙齢の女性と近い世代に見られたことで」などでも可。

× 「自分が若く見られた」のニュアンスがなければ×0点。

② 「幾分うれしくもあるから。」の要素に1点。

- 「なにやらしい気分がしたから。」「多少は喜びを感じたから。」などでも可。
- × 「幾分」「うれしくもある」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

(三) 5点

(模範解答例)

A ○1点

誕生した自分の子についてどこかで見た顔だなど思うのは

B ○1点

無責任と言われようが、

C ① ○1点

自分や肉親に似ず、顔ともいえないのに なぜか見知った顔を感じてしまうこと。(5点)

C ② ○1点

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

【構造点】

・ Xは、条件Aを〈矛盾〉するB、Cの二条件に引き裂いて傍線部を説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の仕組みへの評価である。条件A、Bと、条件Cの要素がそろっていればこの仕組みの骨組みは成立しているともなし1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において、またC内では要素間において、原則的に部分採点可能である。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(1点満点)

A 「誕生した自分の子についてどこかで見た顔だなど思うのは」(1点)

※ 傍線部の説明を導くための話題提示の条件。

○ 「初めての子に対面したとき、どこかで見た顔だなどつぶやくのは」「生まれた子を見てどこかで見た顔だなど口走るの」などでも可。

× 「誕生した自分の子について」「どこかで見た顔だなど思う」の二成分がそろっていないければ×0点。

B 「無責任だと言われようが、」(1点)

※ Aの発言に対するマイナスの評価を表す条件。

○ 「非難されるべきことかもしれないが」「禁句と言われるかもしれないが、」などでも可。

× 「無責任」「言われる」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

C 「自分や肉親に似ず、顔ともいえないのになぜか見知った顔を感じてしまうこと。」(2点)

※ Aの発言に対する、Bとは〈矛盾〉するプラス気味の(肯定的な)評価を表す条件。

① 「自分や肉親に似ず、顔ともいえないのに」の要素に1点。

○ 「自分にも双方の肉親にも似ず、まだ顔の態をなしていないのに」「自分を含めた肉親に似ず、顔としての姿をなしていないのに」などでも可。

× 「自分や親族に似ていない」「顔とも言えない」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「なぜか見知った顔を感じてしまうこと。」の要素に1点。

○ 「奇妙なことにごどこかでとうに見知った顔にみえてくるということ。」「不思議なことに見知った顔に思えてくること。」などでも可。

× 「なぜか」「見知った顔を感じてしまう」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

四 5点

(模範解答例)

A ○1点

自分の内で自分の知っているほんの一部を超えて、

B ①○1点

自分に流れこんでいる自分の見も知らぬ縁者、祖先や人々に、

B ②○1点

赤の他人とも見えるが縁のある

B ③○1点

X 〈分析〳分けること〉○1点

安らかに出会えていること。(5点)

【構造点】

・Xは、傍線部が喻えている内容を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに分けて説明する〈分析〳分けること〉の仕組みへの評価である。ここでは条件Aと、条件B内の要素があれば、この仕組みの骨組みは成立しているときみなして1点加算。

X 〈分析〳分けること〉 A+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、またB内では要素間においても部分採点可能である。(4点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(1点満点)

A 「自分の内で自分の知っているほんの一部を超えて、」(1点)

※ 傍線部の喻えている内容を説明する一方の条件。

○ 「自分の中で自分が把握できているほんの一部分を越えて、」「自分の内で自分が認識できている小部分を超えて、」などでも可。

× 「自分の内で自分の知っている」「ほんの一部」「超えて」の三成分がそろっていなければ×0点。

B 「自分に流れこんでいる自分の見も知らぬ縁者、祖先や赤の他人とも見えるが縁のある人々に、安らかに出会えていること。」(3点)

※ 傍線部の喻えている内容を説明する、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「自分に流れこんでいる自分の見知らぬ縁者、祖先や」の要素に1点。

※ 条件Bの中に含まれる「身内」の要素。

○ 「自分の一部を構成している見たこともない縁者、祖先や」「自分の中に入り込んでいたことのない縁者、祖先や」などでも可

× 「自分に流れ込んでいない」「自分の見知らぬ」「縁者、祖先」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

② 「赤の他人とも見えるが縁のある人々に、」の要素に1点。

※ 条件Bの中に含まれる「他人」の要素。

○ 「何かの縁でつながった生者死者たちという他者の要素に」「他人と見えるが何かの縁でつながった人々（という要素に）」などでも可。

× 「縁のある」「赤の他人（と見える）」という要素」のニュアンスの二成分が入っていないければ×0点。

③ 「安らかに出会えていること。」「の要素に1点。

○ 「出会えているようにやさしさを感じていること。」「やさらかな出会いを感じていること。」「などでも可。

× 「安らか」「出会えている」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。